

説教題：人を汚すものは何か(18～)

聖書:マタイ 15章21～24節

<口語訳>

新約聖書24～25頁

マタイ 15章21～24節

<新共同訳>

新約聖書30～ 頁

マタイ 15章21～24節

<新改訳第3版>

新約聖書30～31頁

マタイ 15章21～24節

<塚本訳>

新約聖書114～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ15:21～24節**の「**人を汚すものは何か(18～)**」の主のみことばから、「**神(天)の国**」(**神の真理・真実・奥義**)を知りたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**口に入るものは人をけがさない。口から出るもの、これが人をけがす**」と、弟子たちに語り、「**汚れ**」が、心の問題であることを示してくださいました。
- ⇒「**汚れ**」は、本質的に、ユダヤ人、異邦人のどちらにも関わる罪の問題です。
- ⇒**ユダヤ人指導者**の陰険な動きを察知して、主は、「**ツロ、シドン**」に退去されたのです。
- ⇒主のうわさを聞きつけた群衆が押寄せ、その中に悪霊に憑かれた娘をもつ**カナン(フェニキヤ)**の女性がいて、「**御子イエス・キリスト様**」に娘の癒しを求めて、訴えたのです。

本論；

◇本日、**マタイ書15:21～24節**から主の**使信**に**思い・心**をとめます。

◆**マタイ15章21～24節**；**使徒マタイ**は、「人を汚すものは何か(18～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**15:1～20節**；**塚本訳◆カナン**の女

「21 イエスはそこを出て、ツロとシドンとの地方に引っ込まれた。

22 すると、その地方生まれの一人のカナンの女が出てきて叫んだ、「主よ、ダビデのお子様よ、どうぞお慈悲を。娘がひどく悪鬼に苦しめられています。」

23 しかしイエスは一言も答えられなかった。弟子たちが来て、願って言った、「願いをかなえてやって、(早く)この女を追い払ってください。どなりながらついて来ますから。」

24 イエスは答えられた、「わたしはイスラエルの家のいなくなった羊だけにしか、遣わされていない。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ15:21～22節**は、「イエスはそこを出て、ツロとシドンとの地方に引込まれた(21)」、「すると、その地方生まれの一人のカナンの女が出てきて叫んだ、「主よ、ダビデのお子様よ、どうぞお慈悲を。娘がひどく悪鬼に苦しめられています(22)」と、「カナンの女性」が、「娘の癒し」を求めて、「**御子イエス・キリスト様**」に訴えたのです。

⇒これは、私たちにも深く関わることで、どれほど真剣に主に祈っているかをとしかけています。

⇒祈りは、必ず、自分の願い通りになると思う誘惑があります。祈りの答えは、主がなさるのであって、私たちの選択ではありません。

⇒「カナンの女性」は、祈りには、主への愛、信仰、忍耐が必要であり、自分の弱さと罪深さを認めて、主の前にひれ伏すことが、大事であることを教えます。

⇒祈りの熱心さやことば数の多さは、祈りの本質ではありません。

⇒主の答えがすぐなくても、忍耐と主への信頼をもって、祈ることが求められています。

⇒「あなたがたに必要なのは、忍耐です」。

◇**マタイ15:23~24節**では、「しかしイエスは一言も答えられなかった。弟子たちが来て、願って言った、「願いをかなえてやって、(早く)この女を追い払ってください。どなりながらついて来ますから。」(23)」、「イエスは答えられた、「わたしはイスラエルの家のいなくなった羊だけにしか、遣わされていない。」(24)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「カナンの女性」には、答えず、「弟子たち」が、「願いをかなえてやって、(早く)この女を追い払ってください」と、訴えているのです。

⇒弟子たちの訴えも、いろいろの理解がありますが、女性への同情より、うるさく、面倒だったという理解が正しいと思われれます。弟子には、主が休息のため、この地に退去されたことが、分かっていたからです。

⇒主の答えは、一見つれなく思える、「わたしはイスラエルの家のいなくなった羊だけにしか、遣わされていない」でした。

⇒これは、**神**が、イスラエルを**神の選民**として選ばれた理由があり、選民の品性の優秀さではなく、**神の救いのわざ**の基盤づくりです。

- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、おおよそ3年半の公の働きでした。その大半が、ガリラヤ地方での働きであり、弟子たちの教育・訓練でした。「あなたは、生ける**神の子キリスト**です」のペテロの信仰告白が、主の訓練の目標でした。
- ⇒「**カナンの女性の訴え**」は、「**御子イエス・キリスト様**」の求めの核心では、なかったのです。
- ⇒次週の聖書箇所で分かりますが、主は無視されたのではなく、弟子たちに教えることが、第1で、**神の救いのわざ**の土台造りでした。
- ⇒教会も、課題が山積して、その解決を急ぐあまり、**神の選ばれた目的・イエス・キリスト様の体・共同体**の目指すものを見失いやすいのです。
- ⇒教会は、慈善事業の群れではなく、**イエス・キリストのからだ**としての役目をこの世で果たすことです。
- ⇒教会は、①群れが同じ**神への信仰告白**で1つのされる一致が大事です。②**神礼拝**を通して**聖霊にある一致**を祈ることです。

⇒③さらに、**神の前に罪深いこと**を認め合い、弱さの連帯・交わり・祈り合うことです。

⇒**KT師**がご指摘ですが、教会の大小は、能力の大小ではなく、祈りの大小です。小さく萎縮せず、**御子イエス・キリスト様の恵みの大きさ**に期待することです。

⇒子供が持っていた5つのパンと2匹の魚で、5,000人の給食を群衆に、主は提供されました。ある牧師の説明では、ギリシャ語の時制から主が弟子の手に渡されたパンと魚が、彼らの手の中で次々と膨らんで、大勢の群衆に渡せたというのです。

⇒私たちの手に主が託されたものが、たとえ僅かでも、祈って用いさせていただければ、**神の驚きのわざ**を見せていただけるのです。

⇒【口語訳】 II テモテ 1:12

そのためにまた、わたしはこのような苦しみを受けているが、それを恥としない。なぜなら、わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしにゆだねられているものを、かの日に至るまで守って下さることができる、確信しているからである。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇本日は**マタイ15:21～24節**の「人を汚すものは何か(18～)」の主のみことばから、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実・奥義**」)を知りたいと思います。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「口に入るものは人をけがさない。口から出るもの、これが人をけがす」と、弟子たちに語り、「**汚れ**」が、心の問題であることを示してくださいました。

⇒「**汚れ**」は、本質的に、ユダヤ人、異邦人のどちらにも関わる罪の問題です。

⇒**ユダヤ人指導者**の陰険な動きを察知して、主は、「**ツロ、シドン**」に退去されたのです。

⇒主のうわさを聞きつけた群衆が押寄せ、その中に悪霊に憑かれた娘をもつカナン(フェニキヤ)の女性がいて、「**御子イエス・キリスト様**」に娘の癒しを求めて、訴えたのです。

⇒ I テモテ1:15;【口語訳】

「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった」という言葉は、確実に、そのまま受けいれるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。